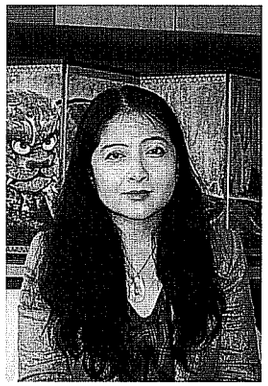
私の読書スタイル 145

実用書から倫理書まで 尽きぬ読書の楽しみ

ギャラリーAYA代表
安村　文氏



朔太郎に熱中

日本画家として世界各国で多彩な活動をしていた橋天敬が亡くなったのが一九八四年のこと。没後も日本国内に限らず、大英博物館やイタリア上院議会などで個展が開かれ、その芸術に対する高い評価は変わることがない。その橋天敬の作品を扱うギャラリーAYAの代表、安村文さんは、没後二十年ほど経った二〇〇四年、多くの人々に天敬の作品を紹介するため、東京・港区神谷町にギャラリーをオープンした。

「父は明治生まれで、亡くなったのが、私が二十歳過ぎ。ようやくいろいろな話ができるかなという時でした。幼い頃には、昼夜問わず絵を描いていた父。芸術家特有の喜怒哀楽がはっきりしておりましたが、お爺ちゃん子のように随分可愛がってもらいました。」

幼少時代は、突然スカウトされたカルピスのCMに四年間も専属で出演し、イタリアオペラ来日公演の舞台に古代ローマ人の王子役で登場した折には、父親の友人であった歌劇団の藤原義江、歌手の東海林太郎から楽屋に花が届いたという。

そんな普通ではできない貴重な体験を通し、一般の子供だったら手にしないような本を愛読することもあった。例えば、芸術座での萩原朔太郎の娘、葉子に扮した時は、「仏蘭西へ行きたしと思へども……」と、朔太郎の詩集に熱中したりと、少しだけおませな少女だったのだ。思春期はシェークスピアや歴史もの、小説では山本周五郎の作品に魅かれた。

最近は、ジャンルにこだわらずに気になったらすぐに手にとる。

「満遍なく興味が湧きます。本屋さんに半日ぐらいいて、結局まとめ買いしてきます。パソコンの仕組みとか骨董の見方とかをわかりやすく解説している実用書もたくさんあり、本当に楽しいです」

しかし、近頃の「本離れ」現象には危機感を感じ、心を痛めている。

「インターネットが普及する中にあっても、縦書きに読む『本』こそが重要です。右から上下に読む日本語の文化に忠実に従っている縦書きの『本』こそが、脳に刺激や感動を与え、心に残るような気がします」

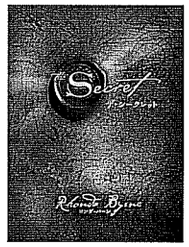
そんな安村さんの「最近の読み応え本」も多岐にわたる。

明治の女性に憧れて

ロンダ・バーン、山川紘矢・山川亜希子・佐野美代子訳『**ザ・シークレット**』（角川書店）――「知人に勧められて読んでみました。アメリカでベストセラーになり、私が買った時で二十七刷になっていました。キーワードは『引き寄せの法則』。似たようなテーマの本も多くありますが、これは一味違い、買って良かったなと思えました」

アリス・M・ベーコン、矢口祐人・砂田恵理加訳『**明治日本の女たち**』（みすず書房）――「明治を生きた人々、殊に明治の女性には憧れがあります。気骨というか、気概がある。現実は難しくても、精神的な面だけは私もこうありたいなと思っております。この本は同じ女性に生まれながら、なんて封建的なのかと驚いている外人女性の手で書かれ、ちょっと極端な描写がまた面白いです。かつては大和撫子といわれた日本女性の姿が目に浮かび、身も引き締まる思いがします」

横山験也『**明治人の作法　躾けと嗜みの教科書**』（文春新書）――「かつて、教育に欠かせなかったのは『修身』『礼法』でした。日本人の誰もが読むべき本です。昔の絵柄で図解ですので目も疲れず、何となく読むのにもちょうどよい本だと思います」



安岡正篤著、安岡正泰監修『**「人間」としての生き方　現代語訳『東洋倫理概論』を読む**』（PHP文庫）――「頑固者の父も安岡先生のお言葉だけには耳を傾けていたようです。先生が書を書かれ、父が絵を描き軸装された作品も残っております。先生のご命日に催される会には無欠席の私でしたが、それ故一冊ずつ本が増えていき、三十冊近くもございます。が、流石に簡単に読みこなすことは難しく、そんな中にあってこの本は非常に丁寧に現代語訳されており、安岡先生に触れるきっかけとしては願ってもない貴重な文庫本です」

興味の赴くまま、こだわりなく、あらゆるテーマを楽しむ読書スタイルを通している。

の図解があり、とても読みやすいので、ぜひ、学校の授業には取り入れてほしいと願う一冊です」

後藤武士『**読むだけですっきりわかる日本史**』（宝島文庫）――「取り敢えず日本史の全体がわかります。この本一冊でOK。文庫なので、なお重宝します」

きれいな日本語に惹かれ

美智子（皇后）『**橋をかける　子供時代の読書の思い出**』（文春文庫）――「以前、美智子さまの朗読をお聞きした折、どんなアナウンサーよりも上手で、いちばんきれいな日本語を話され清々しい思いを致しました。内容もさることながら、私は、読むためというより美智子さまのお話しされていたお声をイメージするためにこの本を求めました。どれほど繰り返し読まれたのか……アナウンサーにはぜひ見習ってほしいですね」

道行めぐ、一校舎国語研究会『**きれいを磨く　美しい日本語帳**』（永岡書店）――「忘れられているきれいな日本語がピックアップされていて、読んで優雅な気持ちになります。例えば『陽炎』『たおやか』『雪明り』……伝えていきたい言葉です」

銀色夏生『**詩集エイプリル**』（角川文庫）――「銀色夏生さんの作品は何とも爽やかな詩が多いです。以前、角川書店の辞典部でお世話になっていた折、新刊の配本があり、それが出会いでした。写真もとっても素敵でセンスが良く、とっても好きな詩集です」

石角莞爾『**ユダヤ人国際弁護士が伝える天才頭脳の作り方**』（朝日新聞出版）――「ノーベル賞受賞者の三割を占めるというユダヤ人。経済の世界でも成功者の多いユダヤ人はどのような教育を受けているのか。日本人は集団で物事を解決する傾向で、ユダヤ人の頼りは個人それぞれのもつ能力がすべて。何事にも疑問を持ち、また褒められることで自尊心が育まれ天才を生む……。非常に面白く本のデザインも素敵です」

茂木健一郎『**化粧する脳**』（集英社新書）――「化粧をする意味はどういうことなのか。脳科学者らしい分析がとても面白かったです。よく、お化粧すると元気になると言いますが、裏付けがあることなんですね。男性が化粧する必要もある？　……読むと解ります」

日垣隆『**ラクをしないと成果は出ない　仕事の鉄則100**』（大和書房）――「このタイトルを見て買いました。私は結構、一生懸命頑張ってしまうことが多いのですが、確かに成果が出ないこともしばしばです。その理由がわかり、改善の道しるべとなる本ですが、男女問わずビジネスマンは手元に置いて読み返したりするとよいかもしれません」

ビジネスリサーチジャパン『**図解　業界地図が一目でわかる本　最新2010年版**』（三笠書房）――「毎年更新される本ですが、合併する会社も多くなり、意外な会社が系列だったりするのが面白いです。文庫ですが、

●安村文さんの最近の読み応え本●

『ザ・シークレット』ロンダ・バーン、山川紘矢・山川亜希子・佐野美代子訳／角川書店
『明治日本の女たち』アリス・M・ベーコン、矢口祐人・砂田恵理加訳／みすず書房
『明治人の作法』横山験也／文春新書
『読むだけですっきりわかる日本史』後藤武士／宝島文庫
『橋をかける』美智子／文春文庫
『きれいを磨く　美しい日本語帳』道行めぐ、一校舎国語研究会／永岡書店
『詩集エイプリル』銀色夏生／角川文庫
『ユダヤ人国際弁護士が伝える　天才頭脳の作り方』石角莞爾／朝日新聞出版
『化粧する脳』茂木健一郎／集英社新書
『ラクをしないと成果は出ない』日垣隆／大和書房
『図解　業界地図が一目でわかる本　最新2010年版』ビジネスリサーチジャパン／三笠書房
『「人間」としての生き方』安岡正篤、安岡正泰監修（PHP文庫）